目次

第一講　文法・敬語 …… p.2
第二講　文法総まとめスピードチェック …… p.26
第三講　単語・重要語句 …… p.45
第四講　総合演習問題 …… p.68
付録 …… p.78

第一講　文法・敬語

予習箇所　「　　　」に適切な語・文字を入れて、見分け方を完成させておくこと。各問も答えよ。

● 「に」の識別

① 動詞の一部

{死／往／去}に　＝ナ変の一部

似る・煮る＝上一段の一部

② 形容動詞の一部

様子＋に

〜{か／げ／ら}に　の形が多い

③ 完了の助動詞「ぬ」の連用形

「　　　形」＋に（＋{き／けり／たり}の形が多い）

④ 断定の助動詞「なり」の連用形

「　　　・　　　形」＋に

＊「断定」になりやすい形

・に＋（助詞）＋あり

・に＋{や／か／こそ}。、

⑤　格助詞「に」

「　　・　　形」＋に

＊ V （＝連用形） **に** V　（例）泣き**に**泣きて…

（同じV）

⑥　接続助詞「に」

「　　形」＋に、

＊「、」を目安に、**「ので・のに・ところ」**で訳してみる。

⑦　副詞・副助詞の一部

副詞＝さらに・よに・いかに…等。

副助詞＝だに

★気をつけるべき「に」

○上が「〜か・げ・ら」ではない形容動詞

むべに・そぞろに・すずろに・いうに（優に）・あてに・あからさまに・ねんごろに・つれづれに…等

○「にき・にけり・にたり」でも、接続は必ず確認！

死／往／去　＋　に　＋　き／けり／たり

○下に「あり」があっても「あり＝　　　　」の意味がある場合は「　　　　」。もちろん接続も必ず確認。

「にや・にか・にこそ」も接続確認は忘れずに！

問1　次のそれぞれの「に」を文法的に説明せよ。

ア　女、野にありて…

イ　むべにこそあなれ。

●「なり」の識別

① 動詞「なる」の連用形

〜 「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」 ＋なり　の形が多い。

② 形容動詞ナリ活用の活用語尾

様子＋なり

〜 「　　」「　　」「　　」 ＋なり　の形が多い。

③ 断定・存在の助動詞「なり」〈「　　」＋あり〉

「　・　形」＋なり

＊「　　」＋なり＝存在

④ 伝聞・推定の助動詞「なり」〈「　　」＋あり〉

「　形」＋なり

＊ラ変型＝「　形」に付く

★撥音便（無表記）＋なり＝「　　」

〜 「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」 （**ん**）なり

＊「**な**なり」「**な**めり」の「**な**」＝「　　」

問2　次の傍線部A～D「なり」の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ後のア～オの中から一つずつ選べ（同じ記号は一度しか使えない）。

年は五十余（よ）に[A]なりぬるに、
心ばへもよきおはす[B]なり。
あてなる人[C]なり。
姫君、見も入れ給はず、ことわり[D]なり。

ア　四段動詞「なる」の連用形
イ　形容動詞の活用語尾
ウ　伝聞推定の助動詞「なり」の終止形
エ　断定の助動詞「なり」の連用形
オ　断定の助動詞「なり」の終止形

A＝　　　B＝　　　C＝　　　D＝

●「ぬ」の識別

①　打消の助動詞「ず」の連体形

・「　　形」＋ぬ

・ぬ＋「　　形」接続の語

＊ぬ＋体言

②　完了・強意の助動詞「ぬ」の終止形

・「　　形」＋ぬ

・ぬ＋文末の形・「　　形」接続の語

＊文末の時は「　　・係り結びの法則」に注意！

●「ね」の識別

①　打消の助動詞「ず」の已然形

・「　　形」＋ね

＊
- **ね**ば
- **ね**ど（も）
- こそ〜**ね**

②　完了の助動詞「ぬ」の命令形

・「　　形」＋ね

・ね＋文末の形・命令形接続の語

問3　次の傍線部の助動詞の意味としてふさわしいものを、後の中からそれぞれ一つずつ選べ。

つらさも消えぬ(A)べし。
あかつきの別れはいつも露けきをこは世に知らぬ(B)秋の空かな

ア　打消　　イ　完了　　ウ　自発
エ　断定　　オ　伝聞

A＝　　　B＝

●「る・れ」の識別

①　受身・可能・自発・尊敬の助動詞「る」
上の音が「　　」段＝四段・ナ変・ラ変の未然形

②　完了・存続の助動詞「り」
上の音が「　　」段＝サ変の未然形・四段の已然形

③　活用語の一部
上の音が「u」段　（例）忘る**る**・覚ゆ**る**…等

★上の音は目安になるが、接続をきちんと確認しよう！

問４　次のそれぞれの「る」の文法的説明として正しいものを、次の中から一つ選べ。

戸口さへさながらな[A]るに、…
思ひ続くることどもの多か[B]るを、…

ア　断定の助動詞の一部　　イ　完了の助動詞　　ウ　自発の助動詞
エ　尊敬の助動詞　　オ　形容詞の活用語の一部

A＝　　　B＝

●「らむ」の識別

① 現在推量の助動詞「らむ」
上の音が「　」段＝終止形（ラ変型＝連体形）

② 完了・存続の助動詞「り」の未然形＋推量系の助動詞「む」
上の音が「　」段＝サ変の未然形・四段の已然形

③「〜ら」となる活用語の未然形＋推量系の助動詞「む」
上の音が「　」段が多い

問5 次の傍線部の中で一つだけ種類が違うものを選べ。

ア 文を書きたてまつらむ。
イ この山にとくのぼらむとて…
ウ 生めらむ子も生ひ立ちなば、…
エ 美しからむ子のおはすれば…
オ 女房たち、おどしはべらむと申す。

●「し」の識別

① サ変動詞「す」の連用形

「する」と訳せる

② 過去の助動詞「き」の連体形

「　　形」＋し

＊**し**＋[体言]

③ 強意の副助詞「し」

「**し**も」「**し**ぞ」

「A**し**Bば」

＊省いてもおかしくない「し」

問６　次の波線部（a）〜（h）の「し」のうち、サ行変格活用動詞・形容詞の一部・過去の助動詞、の**いずれでもないもの**が二つある。それはどれか。正しい組合せを、後の中から一つ選べ。

かの人の入りに（a）し方に入れば、…
「あなおそろ（b）し。音（c）し給（たま）へ」
かうあさましき住まひ（d）し侍（はべ）れば、…
『うときより』と（e）しもいふなれば、おぼつかなきこそ頼も（f）しかなれ。
「誰（たれ）と聞こえ（g）し」
いとほのかにかき鳴ら（h）してゐたれば、…

ア　（a）と（d）
イ　（b）と（e）
ウ　（c）と（f）
エ　（d）と（g）
オ　（e）と（h）

●「なむ」の識別

①　他者願望〈あつらえ〉の終助詞「なむ」

「　　形」＋なむ（文末）

②　（完了）・強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量系の助動詞「む」

「　　形」＋なむ

③　ナ変動詞の活用語尾＋推量系の助動詞「む」

死
往
去
｝＋なむ

④　強意の係助詞「なむ」

①〜③以外＋なむ

＊連用形につく場合 ⬇ 形容詞「〜　　」＋なむ／形容動詞「〜　　」＋なむ／打消の助動詞「ず」＋なむ

問7 「思ひの色に立ち出ては、悪しかりなむ」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　動詞の語尾「な」＋助動詞「む」終止形
イ　助動詞「ぬ」未然形＋助動詞「む」終止形
ウ　係助詞「なむ」
エ　終助詞「なむ」

● 「ん＝む」の意味

①「文中」か「文末」に分ける。

文中＝仮定・婉曲

文末＝推量・意志・勧誘適当

②「文中」の場合

む＋体言 ⬇「　　　」が多い。

③「文末」の場合

一人称＝意志

二人称＝勧誘適当

その他＝推量

（以上）が多い。

「と」の上の「む」⬇「　　　」が多い。

＊「これならんかし」の「ん」は文末扱い。↑「かし」は言い切りの形に接続する。

問８　次の波線部ａ～ｄの文法的説明の組合せとして正しいものを、後の中から一つ選べ。

かくなん[a]、…
「いかなる所にかおはすらん[b]」
わが失(う)せたらん[c]には、…
姫君に婚(あ)はせん[d]とありし宰相…

ア　ａ　係助詞の一部　　ｂ　現在推量の助動詞の一部
　　ｃ　現在推量の助動詞の一部　　ｄ　適当・勧誘の助動詞
イ　ａ　係助詞の一部　　ｂ　現在推量の助動詞の一部
　　ｃ　仮定・婉曲(えんきょく)の助動詞　　ｄ　意志の助動詞
ウ　ａ　係助詞の一部　　ｂ　推量の助動詞
　　ｃ　仮定・婉曲の助動詞　　ｄ　適当・勧誘の助動詞
エ　ａ　終助詞の一部　　ｂ　推量の助動詞
　　ｃ　仮定・婉曲の助動詞　　ｄ　適当・勧誘の助動詞
オ　ａ　終助詞の一部　　ｂ　推量の助動詞
　　ｃ　現在推量の助動詞の一部　　ｄ　意志の助動詞

●「て」の識別

①　接続助詞「て」

「　　形」につき、下に助動詞が「　　　」

②　完了の助動詞「つ」

「　　形」につき、下に助動詞が「　　　」

※例外：連用形＋「**て**ば」「**て**ばや」の「**て**」は「完了の助動詞」

問９「のたまひは**て**ば」の「て」の文法的説明として正しいものを選べ。

ア　完了の助動詞　　　イ　動詞の活用語尾

問10　次の波線部（a）〜（f）についての文法的説明として正しくないものを、後の中から一つ選べ。

今年十年（ととせ）まり七年（ななとせ）になむな（a）れれば、
その頃（ころ）は公事（おほやけごと）さし合（b）ひぬべかめれば、
いたはりおこた（c）りなば、
憂ひ嘆か（d）れしを、
この事にあ（e）へるも、
あり果（f）てぬ世にはあれども今はとて

ア　（a）「れれ」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「り」の已然形が接続したもの。
イ　（b）「ひぬ」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「ぬ」の終止形が接続したもの。
ウ　（c）「りな」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「ぬ」の未然形が接続したもの。
エ　（d）「れし」は、尊敬の助動詞「る」の連用形に、過去の助動詞「き」の連体形が接続したもの。
オ　（e）「へる」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「り」の連体形が接続したもの。
カ　（f）「てぬ」は、完了の助動詞「つ」の未然形に、打消の助動詞「ず」の連体形が接続したもの。

●願望の終助詞

未然形＋**ばや**／連用形＋**てしがな・にしがな**＝自己願望（〜たい）

未然形＋**なむ**＝他者願望〈あつらえ〉（〜てほしい）

もがな＝状態願望（〜があればなあ・〜であればなあ）⬇訳した時に、自己願望や他者願望のような訳になるときもある

（例）君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな

あなたにお逢いするためなら惜しくないと思っていた命まで、（あなたにこうしてお逢いできた後は、これからもずっとお逢いできるように）「　　　　」と思うようになったことだなあ。

●「いかで（か）／いかにして＋〜願望・意志」の訳し方

いかで（か）／いかにして＋
- 推量
  - 疑問＝どうして〜か
  - 反語＝どうして〜か、いや〜でない
- **願望・意志＝なんとかして〜・どうにかして〜**

問11　「いかにして御そば近く参りて朝夕見奉り心を慰めばやと思ひめぐらして、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　思い直して
イ　どのようにして
ウ　どういうわけで
エ　なんとかして
オ　いずれにしても

●〈敬語〉補助動詞の種類と訳し方

Ⓢ＝
- 給ふ（四段）
- おはす
- おはします
- います
- まします

〈訳〉～なさる・お～になる

Ⓚ＝
- 奉る
- 申す
- 聞こゆ
- 参らす
- 給ふ（下二段）

〈訳〉（お）～（し）申し上げる・お～する・～いたす

給ふ（下二段）⬇ 〈訳〉～です・～ます・～させていただく

Ⓣ＝
- 侍り
- 候ふ

〈訳〉～です・～ます・～ございます

「補助動詞 2つの『給ふ』」

敬語の種類	活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
尊敬語	**四段**	(は)	(ひ)	(ふ)	(ふ)	へ	へ
謙譲語	**下二段**	へ	へ	（ふ）	ふる	ふれ	（へよ）

＊謙譲（下二段）の終止形と命令形の用例はほとんど見られない。

● 「給は・給ひ・給ふ」＝尊敬の補助動詞

● 「給ふる・給ふれ」＝謙譲の補助動詞

● 「給へ」の場合➡「下（＝活用形）」確認。

★謙譲の補助動詞「給ふ」の特徴

① 「会話文」・「手紙文」で使用。

② 「思ふ」・「覚ゆ」・「見る」・「聞く」・「知る」にしかつかない。

③ 主語は「I」（＝会話主）

④ 訳は「〜ます」・（「〜させていただく」）

⑤ 敬意の方向＝聞き手に対する敬意

問12　「おぼつかなく思ひ給へて」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　そんなはずはないとお思いになって
イ　待ち遠しいと思われて
ウ　頼りないとお考えになって
エ　訳を知りたいと思し召して
オ　気がかりに存じまして

●「敬意の方向」

「誰から」➡敬語の場所
○地の文＝「作者」から
○会話文＝「話し手」から

「誰へ」➡敬語の種類
○尊敬語＝「主体（～は・が）」へ
○謙譲語＝「客体（～を・に）」へ
○丁寧語➡敬語の場所
・地の文＝「読者」へ
・会話文＝「聞き手」へ

＊Ⓚの補助動詞「給ふ」＝**「聞き手」**に対する敬語

問13　次の波線部ａ～ｃの敬語の説明の組合せとして正しいものを、後の中から一つ選べ。

（中略）いそぎおはして、かの立てたる御車に這(は)ひ入り給ひて、「これ、召しつらん所へさし寄せよ。すでに出で給ふぞ(a)」とのたまふに、御供の人々、うち薫る御匂(にほ)ひ、えんなる御姿のなまめかしさなど、ただわが君と思ひ聞こえければ、いとあやしげに思ひたるも、ことわりにをかしきに、ただ今ぞ君はあゆみ出で給ふなる。いかさまにも、さてあるべきならねば、やをらさし寄せたるに、乗り給ふや遅きと、御手をとらへて引き据ゑ聞こえ(b)給ひつつ、

「深き縁(え)の心の奥はしらねどもこれも忍ぶの道ならぬかは

かくは修行者(すぎやうざ)よ。あな尊(たふと)や。今は験(げん)付き給ひ(c)ぬらん。祈りして給はせよ」とのたまふに、…

ア　ａ　中将から大将への敬意を示す尊敬語　ｂ　大将から中将への敬意を示す謙譲語
　　ｃ　大将から中将への敬意を示す謙譲語

イ　ａ　大将から中将への敬意を示す尊敬語　ｂ　作者から中将への敬意を示す謙譲語
　　ｃ　大将から中将への敬意を示す尊敬語

ウ　ａ　中将から大将への敬意を示す尊敬語　ｂ　作者から中将への敬意を示す謙譲語
　　ｃ　大将から中将への敬意を示す謙譲語

エ　ａ　大将から中将への敬意を示す尊敬語　ｂ　御供の人々から中将への敬意を示す謙譲語
　　ｃ　中将から大将への敬意を示す尊敬語

オ　ａ　大将から中将への敬意を示す尊敬語　ｂ　御供の人々から中将への敬意を示す謙譲語
　　ｃ　大将から中将への敬意を示す尊敬語

解答

【第一講】

〈解答〉

問1 ア　格助詞「に」

イ　形容動詞ナリ活用「むべなり」の連用形の活用語尾

問2 A ア　B ウ　C オ　D イ

問3 A イ　B ア　**問4** A ア　B オ　**問5** ウ　**問6** オ　**問7** イ

問8 イ　**問9** イ　**問10** カ　**問11** エ　**問12** オ　**問13** イ

〈空所解答（太字）〉

●「に」の識別

③　完了

「**連用形**」＋に

④　断定

「**体言・連体形**」＋に

⑤　格助詞

「**体言・連体形**」＋に

⑥　接続助詞

「**連体形**」＋に

★気をつけるべき「に」

○下に「あり」があっても「あり＝**存在する**」の意味がある場合は「**格助詞**」。

●「なり」の識別

①　動詞

〜「**ず**」「**と**」「**に**」「**く**」「**う**」＋なり

②　形容動詞

〜「**か**」「**げ**」「**ら**」＋なり

③　断定・存在〈「**に**」＋あり〉

「**体言・連体形**」＋なり

＊「**場所**」＋なり＝存在

④　伝聞・推定〈「**音**（ね）」＋あり〉

「**終止形**」＋なり

＊ラ変型＝「**連体形**」に付く

★撥音便（無表記）＋なり＝「**伝聞・推定**」

〜「**あ**」「**か**」「**ざ**」「**た**」「**な**」＋（ん）なり

＊「なり」「なめり」の「な」＝「**断定**」

●「ぬ」の識別

①　打消

「**未然形**」＋ぬ

ぬ＋「**連体形**」接続の語

②　完了・強意

「**連用形**」＋ぬ

ぬ＋文末の形・「**終止形**」接続の語

＊文末の時は「**疑問副詞**・係り結びの法則」に注意！

●「ね」の識別

① 打消

「**未然**形」＋ね

② 完了

「**連用**形」＋ね

●「る・れ」の識別

① 受身・可能・自発・尊敬「る」

上の音が「a」段

② 完了・存続「り」

上の音が「e」段

●「らむ」の識別

① 現在推量「らむ」

上の音が「u」段

② 完了「り」＋推量「む」

上の音が「e」段

③「～ら」となる活用語の未然形＋推量「む」

上の音が「a」段が多い

●「し」の識別
②「**連用形**」＋し

●「なむ」の識別
① 他者願望「なむ」
「**未然形**」＋なむ
② 完了・強意「ぬ」＋推量「む」
「**連用形**」＋なむ
④強意の係助詞
＊「～**く**」＋なむ／「～**に**」＋なむ

●「ん＝む」の意味
②「文中」の場合
む＋体言 ➡「**婉曲**」が多い。
③「文末」の場合
「と」の上の「む」➡「**意志**」が多い。

●「て」の識別
① 接続助詞「て」
「**連用形**」につき、下に助動詞が「**ない**」
② 完了の助動詞「つ」
「**連用形**」につき、下に助動詞が「**ある**」